



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.2.7 No. 3535

信じられない大ミス!! — 千葉支社運輸課は素人以下 —

「日刊」三五二八号でも既報のとおり、一月二日、千葉支社の、素人以下の列車設定によって、

団臨列車を逆さまにし立往生!!

事実経過はこうである。この日千葉支社は、総武本線旭駅から鎌倉行き団体予約の初詣列車を設定した。ところが運輸課は、東金駅の予約客を乗せるために、成東から東金線を通して東京へ向かう行路を設定してしま

錦糸町駅で団体臨時列車が立往生してしまうという事件がおきた。

際はもっと多数にのぼるはずが最高三四分の遅れとなったのである。

しかし、列車の上り下りを逆さまにするなどできないことは常識以下のことである。労務政策しか頭がないがゆえに平気でこのような列車設定を行い、運輸課の中でも千葉運転区当局も、誰一人チェックする者すらいなかったのだ。

当然列車は、上り下りが逆になってしまい、錦糸町駅でATSからATCへの切り替えができず立往生してしまった。運輸課は、立往生してはじめて自らの失敗に気がつき、大あわてで閉塞方式を指導式に変更したが、二五分遅れ、後続列車一本(新聞発表、実

まさに前代未聞の事態だ。この様なレベルの運輸課であれば、出発信号が消えていても、「発車させる」と規程違反の指令を出すことなどへちやらなはずである。

ウソの発表 事実を隠蔽!

しかし、その後の対応は、更に重大な問題をはらんでいる。素人以下の自らのミスで乗客に多大な影響をあたえたにも関わらず、事実を隠蔽しようとしているのだ。

千葉支社は、これを「車両故障」として発表したので。「JR千葉支社

によると、地下運転の電車は全てATSからATCに切り替えるが、今回なぜ切り替えができなかったのか、原因を調べている(一月二日付千葉日報)、各駅における放送も全て「車両故障」であった。平素、「お客様へのサービス優先」な

どと言っていないながら、ミス隠蔽のために乗客や社会を欺いたのである。この責任は重い。

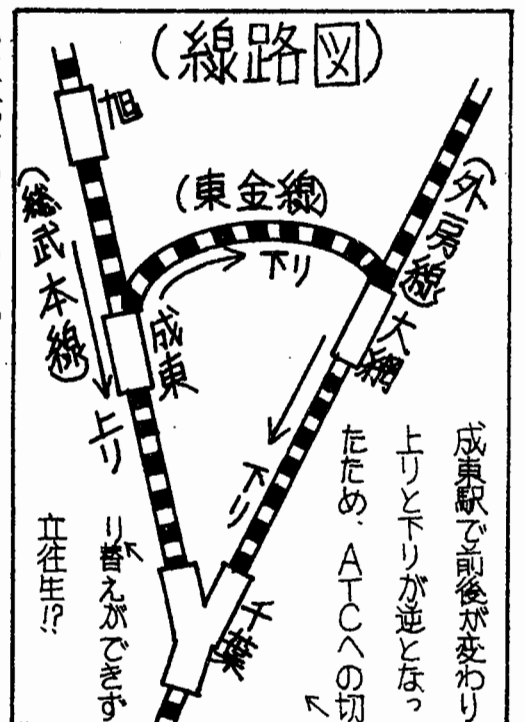
動労千葉は一月二日、別件で設定されていた団交の席上、「運転士に対しては徹底した責任追及をするが、このようなことが相ついでいることについて、自らの責任はどうか考えているのか」と質問したところ、千葉支社運輸課ははき捨てるように、「(今回のことは)別に現場の責任だとは言っちゃあないでしょ!」とのみ発言、それっきりなのだ。何の責任すら感じていないどころか、ひ

泥酔徘徊者(行方)指導助役 驚くべき指導おどろきしき「人格」!

千葉運転区の行方指導助役は、毎日のように私服で各駅を徘徊し、柱の陰に隠れたり、見つからないように運転席の後から覗き込んだりしては、運転士のアラ探しをし、処分・一時金カット乗務停止などに追い込むことを日々の仕事としている人物である。それも、自らの乗務員のみならず、他区の乗務員までも監視し、各区分長に「誰それのしかじかの事を現認した」と連絡をしまくっているのだ。

ところが、昨年十二月十日夜、正体がなくなるまで泥酔したうえ、千葉駅で出合った、乗務途中の勝浦運転区I運転士に対し「オレ

は勝浦運転区の助役の依頼を受けてお前の勤務態度を監視しているんだ」とからみつけたのである。I運転士は、「酔っ払って何を言ってるんだ。そんなに酔っ払って明日仕事にならんぞ」と諭したが、行方助役は「オレは酒を飲んで四時間もあれば醒めるくらいなんだ」と言いながらからみ続けたのである。後日(十二月二十八日)行方助役が、またも私服で千葉駅総合詰所に監視に現われたところ、I運転士と一緒にになった。I運転士は、過日の事もあり、「何で仕事中に私服でフラフラしているんだ」と聞くと、行方



カットだ、配転だ、これでもか、これでもかというほどに、いためつけ、いじめつけるにも関わらず、自らの信じられないような大ミスは隠蔽、これが現在の千葉支社だ。